

第164回「防災まちづくり談義の会」レポート

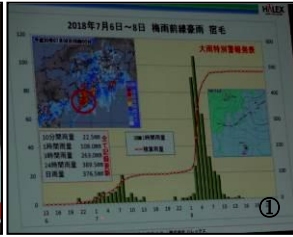
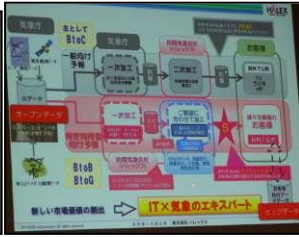
(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成31年2月

日時: 2019年2月22日(金) 18:00-19:30 場所: 神奈川大学 24号館 310号室

◆主催: 防災塾・だるま 司会: 中島光明 記録: 紅林敏行

◆談義の会参加者: 会員14名 一般2名(含む講師) 計16名 (敬称略)



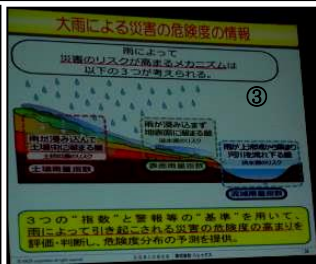
今回は防災気象情報の話を伺える貴重な機会。

中島さん(司会) 藤岡さん(講師) 左(民間気象会社の役割) 中(①2018/7 豪雨の事例) 右(荏本塾長)

話題: 『豪雨による災害に向けた行政サイドの対策』～防災気象情報の活用事例～

講師: 藤岡 浩之氏 株式会社ルックス代表取締役社長

近年、甚大な被害をもたらす大雨や台風の自然災害が発生。気象庁が提供する防災気象情報、ルックス社が提供するポイント気象データ等を紹介し、「2014/8の豪雨事例」、「2018/7の豪雨事例」で防災気象情報がどのように活用されたかについて、現地の雨雲の動き、降雨量、土砂災害等の危険度分布等の写真をまじえながら解り易く講演。



◆自然災害(豪雨)の脅威<<近年の豪雨の特徴>>

- その地方にとって記録的降雨が多い。
- 1日200mm超の大雨は年々の変動が大きい、僅かな増加傾向にある。

○短時間豪雨が増加傾向にある(1時間50mm以上の年間発生数(1000地点当たり)は増加傾向(上記写真②参照))。

⇒『映像による豪雨(1時間20mm/50mm等)イヴ』を体験!
50mm以上の雨は傘が全く役にたたず、水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。車の運転は危険。

参考:当日の映像と異なるが、内閣府HP「防災情報」広報・啓発活動に同様の「実験映像(大雨等)と災害の記録(映像・写真)」が公開。

◆防災気象情報を活用しよう!

参考:気象庁HP「防災情報(気象/地震・津波/火山/海洋等) 気象庁HP各種データ・資料」数値データ-リソース集 (神奈川県、横浜市等の地域の自治体のHPも参照)

○気象庁から様々な防災気象情報が開示されている。
台風進路予報、大雨予報、降水短時間予報、レーダーキャスト(降水・雷・竜巻)、高解像度降水キャスト、切迫度に応じた警報・注意報、土砂災害警戒情報、土砂災害警戒判定マップ情報、大雨警報(浸水害)の危険度分布、洪水警報の危険度分布(河川)、指定河川洪水予報、土壌雨量指数等の様々な情報が提供。

○大雨による災害の危険度の情報(上記写真③参照)
下記の3指数と警報等の基準を用いて雨によって引き起こされる災害の危険度の高まりを評価・判断し危険度分布の予測を提供。
・『土壌雨量指数』:雨が浸み込んで土壌中に溜まる量⇒土砂災害のリスク
・『表面雨量指数』:雨が浸み込まず地表面に溜まる量⇒降水害のリスク
・『流域雨量指数』:雨が上流域から集まり河川を流れ下る量 ⇒洪水害のリスク

◆2014/8の豪雨(広島市)事例

- 8/19:21時26分 大雨洪水警報発表 この時の降雨量:時間雨量16mm
- 8/20:01時15分 土砂災害警戒情報発表 降水量10mm以下
広島県災害対策本部立上げ
- 8/20:02時41分 広島市、注意を促す防災情報メール送出 降水量30mm以上
- 8/20:02時50分 広島市、注意を促す防災行政無線による情報発表
- 8/20:03時20分頃 広島市、土砂災害発生時の通報確認
- 8/20:03時30分 広島市災害対策本部立上げ
- 8/20:03時49分 広島地方気象台 記録的短時間大雨情報発表
降水量120mm
- 8/20:04時15分 広島市、安佐北区へ避難勧告発表
- 8/20:04時20分 根谷川氾濫
- 8/20:04時30分 安佐南区へ避難勧告発表

◆2018/7/6~8の梅雨前線豪雨(宿毛市)事例

梅雨前線の活動の活発化。上段写真①の1時間雨量のグラフの様に、7/7午後に着いた雨が深夜から7/8にかけて短時間豪雨に。7/8:5時8分には、最大1時間降水量108.0mmを観測。6時50分に大雨特別警報発表。7/9市内は冠水被害。

<宿毛市の記録的降雨>
10分間雨量22.5mm/1時間雨量108.0mm/3時間雨量263.0mm/
24時間雨量389.5mm/日雨量376.5mm (全て記録更新)

(2018/6から異常気象に関するルックス社の予報サービスを宿毛市に開始、線状降水帯が豪雨の発生に気が付いた当社予報士から市へアドバース)

◆当社予報センターとしての教訓と課題

- 気象庁の予報データにも限界があることを再認識(特に短時間豪雨)。
- 現段階では専門家の知見で予報精度を捕捉するのが現実的。
- 短時間豪雨等の予測が難しい現象を見逃さないための知見と仕組みを更に高める必要がある。

◆まとめ

- 日頃から情報源(気象庁等)の所在を確認・点検。開示されている過去の事例を参考にすることも重要。
 - 市町村の更改しているマップ・防災計画をチェック。
 - 自分自身の避難計画の作成(避難場所の確認経路途中の土砂災害警戒地区の有無等を点検)。時間軸に沿った対応(マイタイムライン)も作成。(⇒地震とは時間軸が異なります。)
- 参考:内閣官房HPの『平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告書)』も参照。

●次回(第165回)案内

- ・日時:2019年3月22日(金) 13時~14時30分
- ・会場:横浜市青少年育成センター(関内ホール地下2階)第1研修室
- ・話題:『神奈川県における被災地支援』~東日本大震災から8年~(講師:佐川範久氏(神奈川県くらし安全防災局災害対策課長))